

「農家泊体験」に関わるアンケート調査結果について

浜井場小学校5年生・下栗地区体験（7月21,22日）

飯田市教育委員会

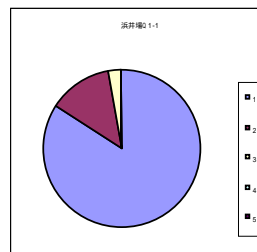
浜井場小学校の5年生が「農家泊体験」をしました。その時の子どもたちの声です。

浜井場小学校5年生児童数 37名

1 体験学習全般について

(1) 下栗での生活について

1 とてもよかった	31
2 よかった	5
3 ふつう	1
4 あまりよくなかった	0
5 よくなかった	0



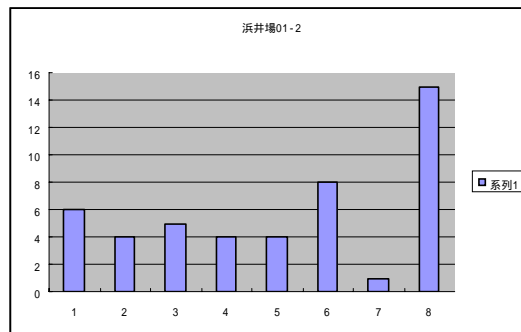
(その理由)

とてもやさしかった(19)	ブルーベリーや芋の収穫ができた(10)
たくさん手伝いできた(6)	薪割りをした(2)
芋やブルーベリーがおいしかった(2)	山がきれいだった(2)
お話がたくさんできた(1)	農作業ができた(1)
一緒に寝てくれた(1)	下栗の人と出会えた(1)
家族がふえた気がした(1)	下栗の人との信頼が深まった(1)
トランプをした(1)	自分の目標を忘れてしまった(1)

(2) 心配だったことは(複数回答)

1 トイレ	6
2 お風呂	4
3 食事	5
4 病気があること	4
5 家族と離れること	4
6 方言で話すこと	8
7 農作業を体験すること	1
8 特になし	15
9 その他	1

(おばけが心配)



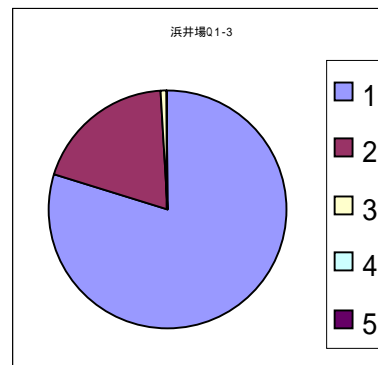
(3) 体験のプログラムはどうでしたか(複数回答)

(体験内容)

1 芋掘り(32)	2 ブルーベリーの収穫(31)	
3 薪割り(12)	4 夕食作り(10)	5 団らん(4)
6 犬の散歩(3)	7 野菜の収穫(3)	
8 いろいろの火おこし(2)	9 ジャム作り(1)	
10 クルミ割り(1)		

(全体験総数 104)

1 とてもよかった	83
2 よかった	20
3 ふつう	1
4 あまりよくなかった	0
5 よくなかった	0

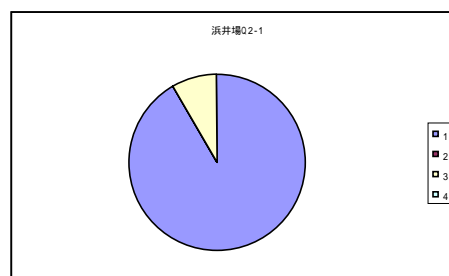


2 農家での体験について

(1) 体験学習をした感想は

- 1 楽しかったし、またやりたい 3 3
- 2 楽しかったけど大変だった 0
- 3 大変だった 3
- 4 もうやりたくない 0
- 5 その他

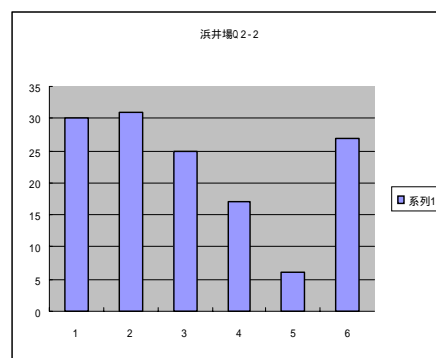
(もう一度でいいので、下栗の同じ家に泊まりたい)



(2) 農家に行ってよかったことは(複数回答)

- 1 農作業ができたこと 3 0
- 2 農家の人とのふれあい 3 1
- 3 農家に泊まったこと 2 5
- 4 田んぼや畑などの自然の中で過ごす時間 1 7
- 5 動物や虫とふれあえたこと 6
- 6 農家の人と一緒に作った料理 2 7
- 7 その他

(農家の人と遊んだ いろいろがあった お母さんと一緒に寝たこと)



(3) 食事についての感想

- 1 満足した 3 2
- 2 まあまあ満足した 4
- 3 ふつうだった 0
- 4 少し不満だった 0
- 5 不満だった 0

(その理由)

農家の人と野菜を取ったり、作ったりしたご飯
がおいしかった。(多数)

下栗芋を初めて食べおいしかった(多数)

みんなで作っておもしろかった

とれたての野菜がおいしかった

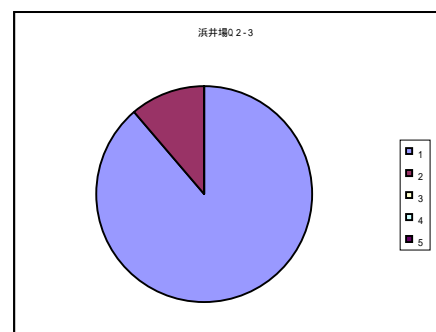
手作りのためかおいしかった

焼き肉やいろいろなおかずがあったから

自分で作った食事のできたから

カレーにブルーベリーを入れておいしかった

三角ずしがおいしかった



3 自己評価の変化

(体験前)

	(肯定)	+ 2	+ 1	0	- 1	- 2 (否定)
(1) 農家の人と話したいか	14	17	5	0	0	
(2) 集団行動はとれるか	10	21	4	1	0	
(3) 家族と離れて過ごすこと	12	9	4	10	1	
(4) 心に残る出会い	11	10	14	1	0	
(5) 人のつながりの大切さ	24	10	2	0	0	
(6) 勉強を頑張ろうとする気持ち	13	17	6	0	0	
(7) 理解する力や問題を解く力	17	10	8	1	0	
(8) 積極的に行動する力	11	13	7	4	1	

(体験後)

	(肯定)	+ 2	+ 1	0	- 1	- 2 (否定)
(1) 農家の人と話げできたか	2 8	7	0	0	0	
(2) 集団行動はとれたか	2 3	1 3	0	0	0	
(3) 家族と離れて過ごすこと	2 8	6	1	2	0	
(4) 心に残る出会い	2 7	8	1	1	0	
(5) 人のつながりの大切さ	2 9	6	2	0	0	
(6) 勉強を頑張ろうとする気持ち	1 4	1 9	4	0	0	
(7) 理解する力や問題を解く力	1 4	1 5	7	1	0	
(8) 積極的に行動する力	2 1	8	7	1	0	

考察

下栗の生活に、ほとんどの児童が満足して帰ってきている。その理由の第一は、下栗の人たちとの心のつながりにある。下栗の人たちの温かな眼差し、そして親身になったお世話が、子どもたちの心を開かせ、家族同様のつながりに発展させている。子どもたちの「別れるのがつらかった」「新しいお父さんやお母さんとの出会いがあった」「お別れの時、涙が流せるほどの家族ができました」というような感想が、下栗の人たちとの深い交流を物語っている。

充実した体験ができた二つ目の理由として子どもたちは、下栗でのブルーベリーや芋の収穫体験をあげている。農業体験のほとんどない子どもたちにとって、そして下栗の大自然の中での体験は、強烈な印象として子どもたちの心の中に深く残ったのであろう。

その収穫したばかりのブルーベリーや芋を使ってのジャム作りや夕食作りは、食べることへの興味を抱かせ、自分たちの日常の食生活への関心を高めるきっかけになった。「みんなで作っておいしかった」「とれたての野菜がおいしかった」「手作りの食事はおいしかった」との感想は、体験からでしか生まれてこない言葉であらう。

こうした体験は、子どもたちにとって日々の自分を見つめ直す大きな契機になっている。そのことは、体験前と体験後の自己評価の結果を見ても窺うことができる。

体験前と体験後の比較から感ずることは、「人との関係づくり」(項目1, 4)、「集団行動」(項目2)、「積極的に行動する力」(項目8)の変化が著しい。またこのことは、今回の体験活動が、こうした三つの力を育む環境を持っていたということになる。その環境とは、「下栗の人」「下栗の自然」そして、「農家での宿泊体験」(夕食を一緒に作ること)ではないだろうか。

受け入れた下栗の農家の方のアンケートの中に、子どもたちから「お父さんと呼ばせてください」「お母さんと一緒に寝たいです」との申し出があったと記されていた。ここからは、子どもたちが下栗の一員になろうという熱い思いが感じられる。その思いが、子どもたちの主体の原動力になっている。浜井場小学校における事前の指導の充実ぶりが窺える。